



大河小だより

小川町立大河小学校
令和8年6月19日 第11号
文責 校長 宮澤 忍

～子供の豊かな成長を支え、地域とともに歩み続ける学校～

〒355-0327 比企郡小川町腰越209 Tel. 0493-72-0068

【学校教育目標】 ○ 自ら学ぶ子（知） ○ やさしい子（徳） ○ たくましい子（体）

【年間生活目標】 「あいさつを広げよう」 「健康な生活を心がけよう」

【6月の生活目標】 「時こくをまもろう」

「什の掟（じゅうのおきて）」から学ぶ

江戸時代、会津藩（今の福島県）は人材育成に力を注いでいました。教育施設として藩校・日新館を創設し、同時に教育制度を徹底させました。会津藩では、藩士の子供たちが10歳になると、「日新館」という藩校で学びました。また、その日新館に入る前の6歳から9歳までの藩士の子供たちは、町内ごとに10人前後で集団を作って生活していました。この集団を「什（じゅう）」と呼びました。現代で言えば、10人前後の遊び仲間ではないでしょうか。

藩士の子供たちは、必ず什に入ることになっており、年長者の中の一人が、什長となりました。そして、毎回みんなが集まると、遊ぶ前に、什長が「什の掟（じゅうのおきて）」を言い聞かせることになっていました。

- 一、年長者（年上の人）の言うことに背（そむ）いてはなりません
- 一、年長者にはお辞儀をしなければなりません
- 一、嘘言（うそ）を言うことはなりません
- 一、卑怯（ひきょう）な振舞（ふるまい）をしてはなりません
- 一、弱い者をいじめてはなりません（以下略）



什の掟の内容は、什によって少しずつ違っていました。共通していたことは、什の掟の最後が、「ならぬことはならぬものです」という言葉で締めくくられていたことです。

「ならぬことはならぬものです」という言葉には、「人としてよりよく生きていくためには、理屈や言い訳が通らない、絶対にやってはいけないことがある」という意味が込められています。礼儀がない、うそをつく、弱い者をいじめることなどは、人として恥ずかしいことだといましめていたのです。

また、会津藩の子供たちは、大人から言われ強制されて、什の掟を作ったわけではないのです。自分たちで「会津藩士の子供はこうあるべきだ」ということを考え、什の掟を作り、互いに約束し合って行動していたのです。そして、什の掟は、次の世代へと受け継がれていったのです。

ところで、皆さんは物事を判断したり、行動したりする時、自分の基準をもっているでしょうか。きっと、会津藩の子供たちのように、「**うそをつかない**」「**自分がされて嫌なことは周りの人にしない**」などの基準をもっている人が、ほとんどではないかと思います。

基準は人によって違うとは思いますが、大切なことは、「**自分の基準が、周りの人を楽しく幸せな気持ちにさせ、自分を高められるような基準になっているか**」ということだと、私は考えています。

大河小学校の皆さん、一人一人が自分の基準をしっかりともち、その基準を破りそうになった時に「**ならぬことはならぬものです**」と、自分で自分の心に言い聞かせて行動することを願っています。

待ちに待った水泳学習(プール開き)が始まりました

6月11日(木)に令和8年度のプール開きを行いました。まずは高学年の5・6年生からです。実は、プール開きを行うことには、大きな意味があります。

プール開きは「水」に安全を祈願する行事です。水は人間の生活にとって欠かせないものであり、時に人の生命を奪うものでもあります。この夏も安全な水泳指導に心がけていきます。



紙漉き体験を行いました(4年)

6月12日(金)小川町の和紙体験学習センターに伺いました。職人さんの指導を受け、紙の原料や加工過程について説明を受け、ビデオを視聴しました。また、職人さんの指導を受けながら、実際の楮を触ったり、紙漉きをしたりして、一人ずつ紙漉きを体験しました。完成した和紙は、後日児童に渡されます。

お忙しい中、ご指導くださった和紙体験学習センターの皆さん、ありがとうございました



6月18・19日の授業参観と校内硬筆展 ご来校ありがとうございます

お忙しい中、学校公開と校内硬筆展にお越しくださりありがとうございました。硬筆の作品や授業の様子など、子供たちの努力している姿を参観いただき、お礼を申し上げます。

子供たちは見てもらって、ほめてもらって、応援してもらって、伸びていきます。そして、子供たちの授業の様子を実際に見ていただくことで、本校の良さが伝わればうれしい限りです。なお、6月26日(金)は、けやき学級の授業参観と校内硬筆展があります。保護者の皆さん、どうぞよろしくお願いします。【写真は1年生の授業参観で食育授業の様子です】

